

OKAZAKI YEG Manual



岡崎商工会議所青年部

商工会議所青年部

綱 領

商工会議所青年部は
地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い
次代への先導者としての責任を自覚し
地域の経済的発展の支えとなり
新しい文化的創造をもって
豊かで住みよい郷土づくりに貢献する

指 針

われわれ青年部は
一、地域を支える青年経済人として 先導者たる気概で研鑽に努めよう
一、国際社会の一員であるべき 国際人としての教養を高めよう
一、豊かな郷土を築くために 創意と工夫、勇気と情熱を傾けよう
一、文化を伝承しつつ 新しい文化の創造に向かって歩を進めよう
一、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ 力を合わせ国の礎となろう

Y E G 宣言

私はY E Gとして、夢に挑む。

私たちはY E Gとして、地域を愛し、日本（にっぽん）を愛する。

すべてのY E Gは、連帯の証となる。

目 次

綱領・指針 Y E G 宣言	2
目次	3
はじめに	4
商工会議所のマーク	4
商工会議所とは	5
目的と性格	5
商工会議所の特徴	5
商工会議所の事業活動	5
商工会議所の歴史	7
商工会議所に関するミニ知識	8
岡崎商工会議所について	11
商工会議所青年部【Y E G】とは	13
綱領・指針	14
Y E G 宣言	15
商工会議所の歌「伸びゆく大地」について	16
地区・ブロック・道府県連・単会（単位Y E G）とは	16
日本商工会議所青年部【日本Y E G】とは	16
日本商工会議所青年部【日本Y E G】の事業	17
日本商工会議所青年部【日本Y E G】の歴史.....	18
東海ブロック商工会議所青年部連合会【東海ブロックY E G】について	20
愛知県商工会議所青年部連合会【愛知県連】について	20
岡崎商工会議所青年部【岡崎Y E G】について	22
岡崎Y E G の目的	22
主な活動	23
主な会議体	25
エンジェルタッチ	26
特別会員、O B 会	26
岡崎Y E G の会員心得	27
心構え	27
Q & A	27
終わりに	29

参考資料 1：日本Y E G 年表

参考資料 2：東海ブロックY E G 年表

参考資料 3：愛知県連年表

参考資料 4：岡崎Y E G 年表

はじめに

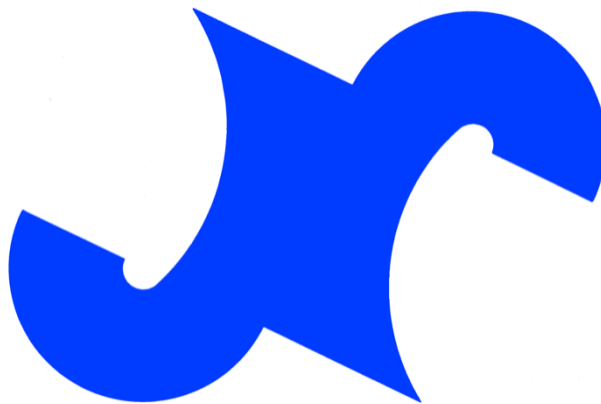
現在、全国515の商工会議所のうち、471商工会議所※が青年部を設置しており、417商工会議所※が日本商工会議所青年部（日本Y E G）に加入し、綱領・指針に基づいた様々な活動を展開しています。（※ 令和4年4月現在）

商工会議所法により運営されている「商工会議所」の活動を大きく分けると「建議・意見活動」「まちづくり事業実施活動」「地域企業振興活動」の3つに捉えることができます。

私たちY E Gは同時に商工会議所の一員です。まず商工会議所活動の一翼を担うために商工会議所をよく理解する必要があります。その活動や歴史・精神を理解することは、Y E G活動の道標となります。

このマニュアルで、商工会議所とY E Gの理解が深まり、岡崎Y E Gの活性化の一助となれば幸いです。

商工会議所のマーク



【由来】

商工会議所のマークは、「Chamber of Commerce and Industry」の三つの頭文字「CCI」を組み合わせたものです。

また、J A P A Nの頭文字「J」も含ませ、大鳥が翼を広げて飛ぶ様子を表現しています。すなわち、日本商工会議所が世界に飛躍している事を示し、全国各地の商工会議所はこのマークで統一されています。

商工会議所とは

商工会議所は、明治11年（1878年）に渋沢栄一氏を始めとする実業界の人々により設立された経済団体です。現在は、昭和28年8月に制定された“**商工会議所法**”という法律によって運営されている“**特別認可法人**”です。商工業を営む人は誰でも自由に参加できます。

● 目的と性格

商工会議所法には、「その地区内における商工業の総合的な改善発展を図るとともに、社会一般の福祉の増進に資する」と記載されています。（商工会議所法第六条）

地域の商工業者の世論を代表し、商工業の振興に力を注いで、経済の健全な発展に寄与するための地域総合経済団体です。全国で122万社を超える会員数を有する日本最大の経済団体です。

● 商工会議所の特徴

会員の中から、選挙や話し合いで議員を選びます。議員は、地域の活性化や税制の事や様々な事を、議論して「提言書」をまとめます。これが地域の商工業者の意見となり、行政や関係団体に提出したり、会員のほか地域の商工業者に提言内容を実行してもらうよう呼び掛けたりします。

商工会議所はそれぞれ地域の特性をもっているので、当然、色々な意見がでてきます。その意見をまとめたり調整するのが、「日本商工会議所」です。通称「日商」と呼ばれます。

日本商工会議所は、そのまとめた意見を政府に提言（建議）します。政府は、この提言（建議）を商工業者の意見として、政策に取り入れていきます。

- ①地域性－地域を基盤としている
- ②総合性－会員はあらゆる業種・業態の商工業者から構成される
- ③公共性－公益法人としての組織と活動などの面で強い公共性を持っている
- ④国際性－世界各国に商工会議所が組織されている

● 商工会議所の事業活動

商工会議所は、業種・業態・規模の大小を問わず、地区内のすべての商工業者の利益を

図るとともに、地域経済社会の振興・発展や社会福祉の増進に資することを目的とし、その目的達成のため次のような多岐にわたる事業を展開しています。

「政策提言活動」

- ・商工会議所としての意見を公表し、これを国会、行政庁等へ具申・建議
- ・行政庁からの諮問に応じた答申

「調査研究・情報資料の刊行」

- ・景況、賃金、物価、中小企業など商工業に関する調査研究、情報資料の収集・刊行

「証明・鑑定・検査」

- ・商品の品質・数量、商工業の事業内容、その他商工業に係わる事項に関する証明等
- ・輸出品の原産地証明

「施設の設置・維持・運用」

- ・商工会館、会議室（ホール）、商品陳列所、商工図書館等の施設の設置・運用「講演会、講習会の開催」
- ・経済問題一般等についての講演会、経営上必要な知識・技能等の講習会等の開催

「技術・技能の普及・検定」

- ・商工業に関する技術・技能の普及および検定
（簿記、販売士、日商ビジネス英語、DC（企業年金総合）プランナー、日商PC）
- ・日商プログラミング、電子会計実務、ビジネスキーボード、そろばん（珠算）等

「博覧会、見本市等の開催等」

- ・商品販路の拡張のための博覧会、見本市、展覧会等の開催等

「商事取引の紹介・あつ旋」

- ・国内外の商事取引に関する仲介・あつ旋（名鑑、バイヤーズ・ガイド等の発行等）

「商事取引の紛争に関するあつ旋・調停・仲裁」

- ・国際商事取引等の紛争に関するあつ旋・調停・仲裁

「商工業の相談・指導」

- ・経営革新、経営一般、情報化、金融、税務、労働、取引、環境対策、法規、技術、特許等についての相談・指導

「信用調査」

- ・商工業者の信用状況の調査の実施

「観光事業の改善・発達」

- ・商工業の面からの観光事業の改善・発達（土産品の改良等）

「社会一般の福祉増進事業」

- ・各種社会事業の寄附金、共同募金に対する協力、美化運動等の福祉増進事業の実施

「行政庁からの受託事業」

- ・行政庁その他関係団体からの委託を受けた商工業に関する事業の調査等の実施

「その他」

- ・その他商工会議所の目的を達成するために必要な各種事業の実施

（商店診断、工場診断、商工祭の開催、外国の実業界の要人との交歓、職業紹介事業、前払式証票（商品券等）の発行等）

● 商工会議所の歴史

明治維新の日本に於いて、幕末の混乱期に諸外国と締結した通商条約等の国際的に不平等な諸問題を是正しなければならなかったことから、当時参議であった伊藤博文氏が大隈重信氏と協議し、**商工業者の民意を取り入れ、まとめる機関の必要性**を提唱しました。

これにより、欧米に倣い実業家と協力して、明治11年（1878年）東京に渋沢栄一氏、大阪には五代友厚氏、そして神戸に神田兵右門氏らが中心となって設立させた「商法会議所」が、現在の「商工会議所」の原点となります。

その後「商業会議所」と改名され、同25年（1892年）には全国15カ所の「商業会議所」が結集し「商業会議所連合会」（日本商工会議所の前身）が設立されました。

そして、大正11年（1922年）6月に「商業会議所連合会」を改編し、地域振興・税制改革等の中小企業を取り巻く諸課題に対し、地域の商工業者の意見を「提言書」としてまとめ、行政機関や他団体に対し建議・要望活動を行うために常設の機構・事務局を持つ「日本商工会議所」が設立されました。

以後、名称・組織の変更など様々な変遷を遂げながら、昭和29年（1954年）、前年に施行された商工会議所法に基づき「日本商工会議所定款」が作られ、日本商工会議所が「特別認可法人」として改編されました。現在、全国に515の商工会議所があり、独自性を

持つ各地域の様々な意見を「日本商工会議所」がとりまとめて政策提言を行い、政府もその提言を政策に取り入れるようになりました。しかし、国際社会を視野に入れながら、地域の商工業者の総合的な改善・発展を図る事を通し、社会福祉の増進に資することを目的とする基本理念は、変わらず受け継がれております。

明治 1 1 年 (1878年)	「商法会議所」設立 東京 3 月 大阪 8 月 神戸 1 0 月
明治 2 3 年 (1890年)	「商業会議所条例」発布、「商業会議所」に改名
明治 2 5 年 (1892年)	全国 1 5 ヶ所の商業会議所が結集し「商業会議所連合会」結成
明治 3 5 年 (1902年)	「商業会議所法」施行
大正 1 1 年 (1922年)	商業会議所連合会を改編し「日本商工会議所」設立 6 月
昭和 3 年 (1928年)	第 1 次「商工会議所法」施行、法の下の特種法人となる
昭和 1 8 年 (1943年)	商工会議所解散、「商工経済法」施行、「商工経済会」設立
昭和 2 1 年 (1946年)	前年（昭和 2 0 年）終戦、商工経済法廃止、商工経済会解散 社団法人 日本商工会議所設立
昭和 2 5 年 (1950年)	第 2 次「商工会議所法」施行、法の下の特種法人へ改編
昭和 2 8 年 (1953年)	第 3 次、現在の「商工会議所法」施行。1 0 月 1 日
昭和 2 9 年 (1954年)	前年に施行された商工会議所法により「日本商工会議所定款」 が作られ、日本商工会議所が「特別認可法人」として改編。7 月 1 日
昭和 4 1 年 (1966年)	アジア商工会議所連合会（C A C C I / キャッシー）発足
昭和 4 3 年 (1968年)	全国商工会議所婦人会連合会発足（後に、婦人→女性に変わる）
昭和 5 3 年 (1978年)	商工会議所 1 0 0 年記念行事を挙げる
昭和 5 8 年 (1983年)	全国商工会議所青年部連合会発足。4 月 1 日
平成 1 3 年 (2001年)	日本商工会議所定款に女性会連合会、青年部連合会が明記される
平成 1 8 年 (2006年)	正式名称「全国商工会議所青年部連合会」の表記を「日本商工 会議所青年部」、呼称を「日本 Y E G」とする。2 月
令和 4 年 (2022年)	日本商工会議所 1 0 0 周年

● 商工会議所に関するミニ知識

◎ 「経済 3 団体」

・ 日 商 日本商工会議所（検索：<https://www.jcci.or.jp>）

- ・ **日本経団連** 社団法人 日本経済団体連合会（検索：<https://www.keidanren.or.jp>）

日本経済団体連合会は、2002年5月に経団連と日経連が統合して発足した総合経済団体です。会員数は1,650社・団体等にのぼります。わが国の代表的な企業1,461社、製造業やサービス業等の主要な業種別全国団体109団体、地方別経済団体47団体などから構成されています。（2021年4月1日現在）

その使命は、企業と企業を支える個人や地域の活力を引き出し、日本経済の自律的な発展と国民生活の向上に寄与することにあります。

- ・ **同 友 会** 社団法人 経済同友会（検索：<https://www.doyukai.or.jp/>）

社団法人経済同友会は、終戦直後の昭和21年、日本経済の堅実な再建のため、当時の新進気鋭の中堅企業人有志83名が結集して誕生しました。以来、一貫してより良い経済社会の実現、国民生活の充実のための諸課題に率先して取り組んでいます。企業経営者が個人として参加しており、会員数は1,537名になっています。（2022年4月1日現在）

◎世界では

世界で最初の商工会議所は、1599年にフランスのマルセイユで誕生しました。マルセイユは地中海沿岸に位置し、貿易の拠点であったため、当然貿易にかかる利害関係が発生し、大きな問題となっていました。その問題を解決するために商人たちと市議会との話し合いが始まり、この集まりがきっかけとなって「商業会議所」が設立されました。

◎商工会議所の名前

マルセイユで誕生した会議所は、商人ギルドたちの話し合いから、名前を「商業会議所」としました。この名称が世界各地に広がっていきました。

日本では、最初は「商法会議所」と呼ばれていました。これは、江戸時代には「商法」という言葉が商売や商業と同じ意味で使われていたからです。また、日本の商工会議所の前身として「江戸町会所」がありました。

◎商工会議所の２つのタイプ

英米系：商工業者自らが任意で集まって商工業の発展を目指す民間の機関で、加入や脱会が自由です。

仏独系：行政の補助的機関の性格を持つ公的法人で、商工業を営むものは全員入会しなければならない、負担金が必ず徴収されます。ナポレオンの遠征によって欧州に広まった制度です。

◎「商工会議所」と「商工会」

商工会は、１９６０年に商工会議所のない地域（町村）の商工業者への支援等を目的に、通商産業省（現・経済産業省）の主導で全国一斉に設置されました。

商工会議所は「商工会議所法」、商工会は「商工会の組織に関する法律」をもとに成り立っています。それぞれの法律の「事業」に関する部分は、商工会議所１８項目、商工会１０項目です。１０項目部分まで両組織とも同じです。商工会議所の事業は８項目多くなっています。

市町村合併等で例外的な地域もありますが、原則として商工会議所は市の区域、商工会は町村の区域に設立されています。商工会議所は、全国５１５所、会員数は約１２２万を有し、商工会は１,６４９商工会で約７８万の会員で組織されています。

岡崎商工会議所について

本所は1892年（明治25年）11月15日、全国の先進都市に伍して愛知県下では名古屋に次いで2番目、全国でも16番目（商業会議所条例による設立認可ベース。設立日ベースでは28番目）に設立された、歴史のある商工会議所です。

● 商業会議所時代（明治25年～昭和2年）

東海道線の開通による視野の拡大、銀行、生糸、繊維など近代産業の勃興、米穀取引所設立気運など産業界の積極的背景のもとに、西三河一円（額田郡岡崎町、幡豆郡西尾町、碧海郡新川町、同矢作村、西加茂郡挙母町、同平井村）を区域として設立しました。

明治末期の著しい経済活動の活発化と第一次世界大戦による好況から、大正末期の経済反動、加えて関東大震災後の経済界の沈滞、金融恐慌、中小企業の労働問題の深刻化は、会議所としては更に協力的な活動を必要とし、諸般の対策活動を推進する他、営業税全廃運動、特産品の紹介、商工業組合連合会の設立など商工業の振興につとめた。また、大正10年には、本市商業青少年の登竜門として、商業実務員学力検定試験の実施と実務員紹介所の設置は注目の事業でした。

● 商工会議所時代（戦前・昭和2年～18年）

政府は、会議所の組織を更に強化し、名実共に経済界の指導的枢軸として、自主的な面から時機に対応できる対応整備のため、商工会議所法を改正し、強制加入、強制賦課、強制徴収制となり財政面が確立しました。

名称を岡崎商工会議所と改め、日清レーヨン、日本レーヨンの工場誘致をしました。また、昭和17年10月25日に、念願の庁舎を六地藏町に建設（敷地250坪、塔屋4階、20年7月20日の戦災で焼失）

● 商工経済会時代（昭和18年～21年）

愛知県商工経済会岡崎支部として発足、時局の進展にともない、商業報告会、産業報告会の活動、配給制度への協力などが行われました。

● 社団法人商工会議所時代（戦後・昭和21年～25年）

戦争によって壊滅的な打撃を受け焼土と化した産業界の復興への意欲はめざましく、戦時体制の商工経済会が廃止されると直ちに昭和21年10月1日に、社団法人岡崎商工会議所を再発足させました。再発足当時の本所の活動は、統制経済に慣らされた諸経済活動の急転換と占領下の幾多の束縛下の変転する社会情勢と悪性インフレに悩まされ、財政基盤の薄弱さも加わって、活動面で多くの制約を余儀なくされましたが、戦災

復興と経済の安定のため、いち早く復興した商店街をまとめ「岡崎集団商店街連盟」の結成、岡崎見本市協会の結成などを行いました。

さらに、昭和23年の商工名簿発行、昭和24年のガラ紡製品の山陰地方出張見本市、商工相談所の開設、岡崎観光まつりの再興と花火大会の開催、商工祭の復活などを行い本市の産業復興に寄与しました。

● **社団法人商工会議所法時代（昭和25年～28年）**

昭和25年5月に、岡崎商店街連盟を設立、同年12月には岡崎法人会の設立、25年10月25日には旧庁舎（現岡信資料館）を竣工しました。

● **現商工会議所への移行（昭和29年～現在）**

現商工会議所への移行は、昭和29年1月26日に組織変更と定款の決定を行い、同年3月15日通商産業大臣の認可を得て、4月1日登記を完了し、法人格を特殊法人として生まれ変わりました。そして、昭和51年（1976年）11月15日の創立記念日に現会館の竣工式を行いました。（建設費は17億690万円でした。）

商工会議所青年部【Y E G】とは

商工会議所青年部は、次代の地域経済を担う若手経営者・後継者の相互研鑽の場として、また、青年経済人として資質の向上と会員相互の交流を通じて、企業の発展と豊かな地域経済社会を築くことを目的としています。

活動の中心は、あくまでも地域経済をリードする若き企業経営者の勉強の場であり、綱領・指針に則り、企業の発展と同時に、地域経済の発展を図る商工会議所活動の一翼を担うという理念のもとに、各地の商工会議所に設置されています。

青年部は、昭和30年代初頭に宮津商工会議所や塩尻商工会議所に組織されたのが始まりで、愛知県内では昭和39年に半田商工会議所に設立されています。昭和40年代に入っても数的には全国で10単会ほどしかありませんでしたが、50年代頃から機運が高まり徐々に増えていき、60年代には全国で組織化を推進した結果、設立が相次ぎました。

現在、全国515商工会議所のうち471カ所に設置され、うち日本商工会議所青年部（日本Y E G）に加盟する青年部は、417青年部（令和4年4月現在）を数えるまでに大きく成長してきました。また、青年部出身の会頭、副会頭も増え、常議員、議員等、商工会議所役員の就任者は約8,400人にもものぼる（現役会員を含む、令和元年12月現在）など、地域の商工業者の後継者として若さと情熱をもった若き経済人として、産業分野のリーダーとして活躍しています。まさに「若き企業家集団〈Y E G（Young Entrepreneurs Group）〉」として、地域の次代を担う志の高い経営者の育成に貢献していると確信しています。

● 綱領・指針

綱 領

商工会議所青年部は

地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い

次代への先導者としての責任を自覚し 地域の経済的発展の支えとなり

新しい文化的創造をもって 豊かで住みよい郷土づくりに貢献する

指 針

われわれ青年部は

一、地域を支える青年経済人として 先導者たる気概で研鑽に努めよう

一、国際社会の一員であるべき 国際人としての教養を高めよう

一、豊かな郷土を築くために 創意と工夫、勇気と情熱を傾けよう

一、文化を伝承しつつ 新しい文化の創造に向かって歩を進めよう

一、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ 力を合わせ国の礎となろう

『綱領・指針』の解説

商青連（現・日本Y E G）創立5周年（1988年）を記念し、商青連会員青年部を対象に「これからの青年部を考える」に関するアンケート調査を行い、寄せられた意見、要望を参考にしながら、「これからの青年部への提言」としてとりまとめるとともに、その内容を青年部活動の拠り所ともいえるべき「綱領」と「指針」に集約した。この内容は5周年記念誌「明日への挑戦」（B5判、96ページ）に掲載し、第6回中央研修会の資料として活用するとともに会員、特別会員に配布した。※綱領とは、物事のおおもと・要点を意味し、政党・団体等の主義・主張・活動の根本方針のこと。指針とは、物事の向かうべき方向を示す方針を意味します。（旺文社「国語辞典」より抜粋）

● YEG宣言

私はYEGとして、夢に挑む。

私たちはYEGとして、地域を愛し、日本（にっぽん）を愛する。

すべてのYEGは、連帯の証となる。

《宣言趣旨》

商工会議所青年部会員は、YEG精神の下に、研鑽と交流を通じて、企業家精神をより一層高め、大きく成長していかなければならない。一人一人のYEGは、自らの企業の発展を原点として、さらに地域社会への貢献を考え、それぞれの夢に若さと情熱をもって積極果敢にチャレンジし、経済人としての自己実現を図っていかなければならない。

商工会議所青年部は、地域を愛し、日本（にっぽん）を愛する。活動の基盤を地域に置き、独自の歴史と文化、その地域の特性を十分活かして、豊かな住みよい地域を創造していく。地域を愛することがYEGの原点であり、YEGとして誇りをもって地域と日本に貢献する。一人一人のYEGが、そして若き企業家集団であるYEGが、次代の担い手として、今後とも商工会議所活動の一翼を担い、より活力ある地域と日本の経済社会の実現に向けて全力で取り組んでいく。

日本商工会議所青年部（日本YEG）は、すべてのYEGの連合体として、日本商工会議所の方針を踏まえ、YEG（若き企業家集団）のビジョンを内外に示し、各地青年部の活動支援・調整、組織強化を行い、そのネットワークを最大限に活かして、地域の枠を超え、青年部の活性化と機能強化を図っていく。そして、私は、また私たちは、全国的な交流を促進し、YEG精神の一層の高揚を図り、連帯の証となる。

《策定・改正の経緯》

「YEG宣言」は、第12回全国大会山形大会（1992年11月）において、YEGの今後の指針となるべき宣言として採択された「山形宣言」を、綱領・指針と同様に、全国YEGの基本として位置づけたもの。その後、日本YEG設立30周年を迎え、第32回全国大会おきなわ那覇大会（2013年3月）で採択された「おきなわ那覇宣言」

を踏まえ、日本を愛する志を込めるべく、宣言の改正が行われた。

● 商工会議所青年部の歌「伸びゆく大地」について

昭和61年に会員相互の連帯と意識の高揚を図り、YEG活動を広くPRするために制作された。歌詞は一般公募により、全国各地から寄せられた44作品の中から福山商工会議所の職員であった石井 耕二氏の作品が選ばれた。その歌詞に、作曲家で愛知県立芸術大学教授の石井歓先生が曲を付け、第6回全国大会福島大会の席上で披露された。

● 地区・ブロック・道府県連・単会（単位YEG）とは

日本商工会議所青年部（日本YEG）は、全国を「東地区」・「中地区」・「西地区」の3つの地区割りにし、更に9つに区分けした「ブロック」単位エリアを設けています。各ブロックは、合計45道府県商工会議所青年部連合会（道府県連）から組織されています。各単会（〇〇商工会議所青年部）は道府県連やブロックに理事を出向させたり、各地域の諸問題を持ち寄るなどして、日本YEGと共に相互に連携を図りながら事業を行っています。

- ・「東地区」・・・北海道ブロック（1道連）、東北ブロック（6県連）、関東ブロック（7県連）
- ・「中地区」・・・北陸信越ブロック（4県連）、**東海ブロック（3県連）**、近畿ブロック（7府県連）
- ・「西地区」・・・中国ブロック（5県連）、四国ブロック（4県連）、九州ブロック（8県連）

● 日本商工会議所青年部【日本YEG】とは

- ・正式名称 全国商工会議所青年部連合会
- ・表 記 日本商工会議所青年部
- ・呼 称 日本YEG（ニホン ワイ イー ジー）
- ・会 員 417単会（全国の商工会議所青年部）：加入率 88.5%（R4現在）
- ・特別会員 45道府県商工会議所青年部連合会・・・未設置 東京都、山梨県
9ブロック商工会議所青年部連合会
総メンバー数 32,156人（令和4年5月現在）

・事務局 日本商工会議所 中小企業振興部内

東京都千代田区丸の内3-2-2 TEL 03-3283-7848 FAX 03-3211-4859

● 日本商工会議所青年部【日本Y E G】の事業

日本Y E Gには3つの大きな事業があります。青年部の祭典として「**全国大会**」。全国を9ブロックに分けて研修と事業の成果について情報交換を行う「**ブロック大会**」。そしてこれからの青年部活動のためのリーダー研修の場としての「**全国会長研修会**」。この大事業を中心にヒューマンネットワークづくりを実践しています。

このほか、個々の事業所の経営力向上につながる研修会等、また、ビジネスネットワークを構築し更なる経営基盤の強化につながる事業を実施し、会員事業所の発展につなげる事業を推進しています。

また、地域・業界・個々の事業所などで抱える諸問題について、取りまとめ検証し日商会頭へ具申、提言活動を行なっています。さらに、平成18年度からは、国の若手公務員との意見交換も行ない、地域からの声を国や行政に訴えるためのパイプ作りがなされています。

1. 全国会長研修会

(目的)：各地商工会議所青年部の指導的役割を担う会長、次期会長予定者、および担当事務局を対象に、地域経済を担うリーダーとしての資質の向上と意識の高揚を図るとともに、青年部の当面する課題等について意見交換を行い、青年部組織の活性化と一層の充実に資する。

(「日本商工会議所青年部全国会長研修会」開催要綱より抜粋)

2. 全国大会

(目的)：商工会議所活動の一翼を担う全国各地の青年経済人が、交流と連携を通じて次代への先導者としての意識高揚を図る。併せて、新しい地域文化の創造と豊かで住みよい地域づくりに向けた役割と責務について

認識を深める。以て、地域経済社会の将来にわたる健全な成長・発展に寄与する。

(「日本商工会議所青年部全国大会」開催要綱より抜粋)

3. ブロック大会

(目的)：経済・社会環境が大きく変化する中で、企業と地域社会の次代を担う青年経済人が互いに交流と連携の輪を拡げ、企業の発展と豊かな地域社会の形成に果たす商工会議所の役割を認識し、その実現のために青年経済人として何をなすべきかを研究し研鑽することを目的とする。

(「日本商工会議所青年部ブロック大会」開催要綱より抜粋)

● 日本商工会議所青年部【日本Y E G】の歴史

商工会議所青年部は、次代の地域経済を担う後継者の相互研鑽の場として、また青年経済人として、資質の向上と会員相互の交流を通じ、自企業の発展と豊かな地域経済社会を築くことを目的に、全国各地の商工会議所に設置されています。

しかし、商工会議所のある都市部には、各種団体の青年部などが数多く存在し、中には商工会議所がそれらの団体の事務機能を代行しているところも多いなどの背景もあって、青年部を設置することに消極的な商工会議所もみられます。一方で、商工会議所青年部の活動は、企業経営や商工会議所の勉強の場であり、交流や連携、研修や研鑽を通じて企業の発展を図ることや、企業や地域を取巻く諸問題解決のための意見・建議活動を行うなど、商工会議所の強化につながることや、各種団体の青年部等との相違点についての理解や認識が深まるにつれて、青年部を設置する商工会議所が急速に増えてきました。

このような中で、先進青年部の中から日本商工会議所（日商）に対して「青年部の全国組織化を図ってほしい」「全国大会を開催してほしい」という要請が、1979年（昭和54年）頃から出てきました。そこで日商では、全国組織化や全国大会を開催する前に、商工会議

所青年部の目的、あり方を確認し合う必要があるとの観点から、地域ブロックごとに、青年部の運営研究会を開催してきました。

こうした経緯を踏まえ、「行動する商工会議所に若い力を」のスローガンのもとに、商工会議所青年部の初めての全国大会が1981年（昭和56年）11月に群馬県前橋市で開催されました。この大会で「全国組織化を図れ」との提案があり、参加者全員の総意で採択されました。

これを受けて日商では、全国9ブロックの青年部の代表25人から成る「全国組織化推進委員会」を設け、全国組織化の必要性について再確認するとともに、全国連合会が行うべき事業とその収支予算等について検討を重ねてきました。1982年（昭和57年）10月に富山県高岡市で「若い力を結集し、商工会議所に新たな飛躍を」のスローガンのもとに第2回の全国大会が開催されましたが、その際、全国商工会議所青年部連合会の結成大会も併せて開催され、全国組織化推進委員会が検討してきた連合会の規約、事業計画、収支予算等が同大会で諮られ、その結果、全国商工会議所青年部連合会（通称：商青連）が、1983年（昭和58年）4月1日に発足することとなりました。

そして、2001年（平成13年）5月24日、商工会議所の組織基盤を強化し、商工業の改善発展に寄与するために、“商工会議所青年部を会員とする全国商工会議所青年部連合会を置く”として、全国商工会議所女性会連合会とともに日本商工会議所定款に明記され、その組織が日本商工会議所の一部として正式に認証されました。

また、2006年（平成18年）2月より、正式名称「全国商工会議所青年部連合会」の表記を「日本商工会議所青年部」に、また呼称を「日本Y E G」とすることになりました。2008年（平成20年）に、規約の第1条（目的）と第3条（事業）の改正を行ないました。それまで「交流と連携」に主眼を置かれていた日本Y E Gの目的を、「商工会議所の一翼を担う組織となるため、全国組織としての方向性を明確にするとともに、各地の青年部の声を集約した上で商工業振興を支え、さらに組織強化に寄与すること」と改正しました。

2009年（平成21年）から全国会長研修会（11月）を「次年度会長は十分準備期間を

とって次年度に備えること、当該年度会長には当該年度の事業の精査をする期間」とし、全国大会（２月・３月）を「全国の仲間と共に当該年度集大成の場、また次年度との交流と連携の場とする」ことを目的にサイクル変更を実施いたしました。

● 東海ブロック商工会議所青年部連合会【東海ブロック Y E G】について

- ・区 域 愛知、岐阜、三重
- ・会 員 39 単会（愛知：21、岐阜：6、三重：12）
- ・総メンバー数 3,538人（令和４年５月現在）
- ・事務局 ブロック会長が所属する単会が担う

【歴史】

平成７年度の全国商工会議所青年部連合会（商青連、現・日本 Y E G）の組織改編に伴い、各ブロックから代表理事を輩出するようになりました。連合会未設置のブロックも設立が相次ぎ、東海ブロックは最後となりましたが平成９年度の平成１０年２月１４日に総会を開催し設立されました。

【活動】

東海３県内の単会の交流と連携を図り、その発展と組織強化に寄与することを目的に、交流事業を中心に活動しています。最大の事業は、ブロック大会で３県の単会はもとより日本全国から1,500名を超えるメンバーが集結します。それ以外にも、春の会長会議、親睦交流会、名古屋商工会議所若鯨会との交流会など、様々な交流事業を実施しています。平成２１年度からは、委員会を設置し単会からの出向者が親睦を深める一助となっています。

● 愛知県商工会議所青年部連合会【愛知県連】とは

- ・会 員 21 単会

(岡崎、豊橋、半田、一宮、瀬戸、蒲郡、豊川、刈谷、豊田、碧南、
安城、西尾、津島、春日井、稲沢、常滑、江南、小牧、犬山、東海、
大府)

- ・総メンバー数 2,117人（令和4年5月現在）
- ・事務局 県連会長が所属する単会が担う

【歴史】

平成3年度に各都道府県から代表者を商青連に輩出することとなり、県内の調整機関として連絡協議会が発足。その後、組織強化の一環として県別連合会の設立の流れもあり、平成7年度より愛知県商工会議所青年部連合会へ発展しました。平成18年度より、前年度に愛知県連が全国大会を主管したことで県内の交流が深まり、それまでの理事による2委員会制（尾張・三河）から、全単会からの出向者で構成される3委員会制となりました。

【活動】

愛知県内のY E Gの交流と連携を図り、その発展と組織の強化および地域社会の発展に寄与することを目的に様々な事業を実施しています。理事会の他、交流、研修、広報の3つの委員会を設置し、全21単会からの出向者で運営されています。年4回の会長会議、研修事業、交流事業、愛知県Y E G DAYを企画・開催し、メンバーの交流と連携を推進しています。

岡崎商工会議所青年部【岡崎Y E G】について

岡崎商工会議所青年部は、平成元年3月1日に116名により設立され、同年4月より正式に活動を開始しました。設立総会において、当時の会頭である服部國男氏は、青年部の目的とあり方を「岡崎に合った組織運営とは何かを研究検討した結果、次代を担う若手経営者、後継者の研鑽を目的とすることを基本とし、地域の活性化、国際化に対応する新しい時代に即した人材の養成に力を注ぐ」と述べられました。以来、次代の地域経済界を担うニューリーダーの育成を目指し、『自己研鑽』と『相互啓発』、それに『地域振興』の3つを活動の大きな柱に、活発な交流、研修活動を行ってきました。

● 岡崎Y E Gの目的（規約より）

「若手経営者および次代を担う若手後継者、幹部社員をもって組織し、事業経営者として研鑽をつみ、経営者としての人格教養、経営能力の向上により、企業の発展をはかり、合わせて商工会議所の一翼を担い、地域社会の繁栄、文化の発展に貢献する」

○基本的な考え方

①先導者の自覚

次代の地域経済を担う者として、自己研鑽に励み、お互いに切磋琢磨し、志を同じくする仲間と友情を深め、青年経済人としての資質向上を図らなければなりません。

②経済的な支え

地域の経済的な発展は、豊かな地域づくりにつながり、その原点は、会員一人ひとりが自らの企業や事業所を発展させることにあります。

③勇気と情熱

Y E Gは商工会議所活動に新風を吹き込み、活性化を図るために必要だという考えに基づいて設立されています。つまり、若い柔軟な思考力と発想力、エネルギッシュな行動力、集中力に期待されています。

独創的な発想のもと、明確な目標目的を持って積極的に行動しましょう。

④商工会議所の一翼

地域に根差し、地域社会の健全な経済発展を図るためには、商工会議所の活性化、組織力強化は不可欠です。創意工夫と行動力でY E Gの存在価値を高めることは、必ず商工会議所の活性化につながります。

⑤地域とともに

綱領にある「豊かで住みよい郷土づくりに貢献する」のためには、地域に必要とされる組織でなければなりません。しかし、Y E Gは奉仕や娯楽の団体ではありません。地域経済団体であることを念頭に、経済活動というアプローチで地域、ひいては日本の発展に寄与していきましょう。

● 主な活動

全ての活動は、3本の柱「自己研鑽・相互啓発・地域振興」に基づいて企画され、Y E G活動の目的である「企業の発展」につなげるために実施されています。

①例会

本会の目的達成に必要な各種事業を、原則として月1回開催します。

○講演会 … 経営・経済講演会、経営者による体験談的な講演会の開催など

○研修会 … 経営者として必要な基本的な事柄に関する研修会、自己研鑽を図るため必要な各種研修会の開催

○視察会・交流会 … 先進青年部の活動視察・交流会開催や、優良企業・先進商工業施設・各種イベント等の視察・見学会の開催など

○会員交流・親睦事業 … 意見交換会、スポーツ大会、親睦会をはじめ、相互啓発を図るための各種交流・親睦事業の開催

②委員会

担当例会の企画・運営（年1・2回）の他、異業種交流勉強会、人物訪問、企業訪

問、講師・ゲストを招いての各種セミナー、委員親睦会の開催など、それぞれ、委員会のニーズに応じた活動を毎月1回程度開催しています。

③ 渉外活動

○所属団体への出向者輩出、全国大会、ブロック大会、全国会長研修会など日本YEG、東海ブロックYEG、愛知県連が開催する各種事業への参加

○他YEGとの交流（豊橋YEG：H21～、福山YEG：R1～）

○岡崎市青年経営者団体連絡協議会が主催する事業への参加

○高雄市国際工商経営研究社との交流（来岡、訪台）

※所属団体

- ・日本商工会議所青年部（日本YEG）
- ・東海ブロック商工会議所青年部連合会（東海ブロックYEG）
- ・愛知県商工会議所青年部連合会（愛知県連）
- ・岡崎市青年経営者団体連絡協議会（青経連）
- ・岡崎市雇用対策協議会

※友好団体

- ・高雄市国際工商経営研究社（平成3年より交流し、平成5年度に姉妹提携調印）

④ 調査・広報活動

○ホームページによる、最新情報を発信

URL <https://okazaki-yeg.jp/>

○日本YEG公式ツールであるグループウェア

「エンジェルタッチ（URL <https://edesk.jp/at/>）」の活用

○エフエムEGAO 岡崎商工会議所青年部会員有志パーソナリティー番組

「I Love 岡崎 らぶっちゅ（毎週水曜日19:30～20:00）」（H12放送開始）

○その他、SNSを利用し情報発信

● 主な会議体

① 会員総会

会員総会は岡崎 Y E G の最高意思決定機関で、重要事項を審議し、会の方向性を確定させます。重要事項とは、明確に規定されていませんが、通例では役員人事、活動方針、事業計画・報告、収支予算・決算、規約等の改正が含まれます。会員として必ず意思表示できるよう出席するよう努め、やむを得ず欠席の場合は、委任状を提出してください。

② 理事会

理事、役員で構成されています。総会議決を要しない日々の運営について審議しています。会員の入会・退会、例会等の事業計画・報告の承認、各種報告事項などを行います。

③ 委員会

Y E G の活動の中心であり、正副会長を除く会員はいずれかの委員会に所属し、担当例会の企画・運営について議論します。委員会での意見は、委員長により理事会に提出されますので、積極的に参画してください。

④ 例会

担当委員会が中心となり企画運営し毎月 1 回開催されます。会員全員が集い、研鑽と交流ができる機会なので、積極的に出席するよう努めてください。

⑤ その他

円滑に事業を進めるため規約等に定めのない会議体もあります。正副会長会議や委員会スタッフ会等、必要に応じて会長や委員長が招集し開催されます。

● エンジェルタッチ（ＡＴ）

日本ＹＥＧ公式グループウェアとして全国の７割以上の単会で使われています。スケジュール管理、出欠回答、データ保存・閲覧、電子会議室などの機能を有し、情報共有ツールです。スマートフォンにも対応し、アドレス帳機能もありますので、必要に応じて登録をお奨めしますが、個人情報管理には注意が必要です。

電子会議室は、各委員会の会議室があり情報共有に活用してください。また、会員全体に配信できる会議室として「岡崎ＹＥＧニュース」と「岡崎ＹＥＧ広場」２つありますが、以下のルールを守って運用してください。

○岡崎ＹＥＧニュース

- ・事務局、委員会などからの商工会議所やＹＥＧに関する情報発信に限定
- ・返信は不可
- ・現役メンバーのみで全会員が受信

○岡崎ＹＥＧ広場

- ・会員相互で自由に発信できる。仕事や各種ＰＲなど幅広い情報発信が可能
- ・受信は任意（各自で配信設定）
- ・希望するＯＢも受信が可能

● 特別会員、ＯＢ会

ＹＥＧの卒業は５１歳になる年度です。（規約５条を参照）卒業した会員は特別会員となります。特別会員で、終身会費で３万円を納めるとＯＢ会員となり、ＯＢ会に入会することができます。（青年部卒業生に対する規則・第５条参照）

岡崎Y E Gの会員心得

岡崎Y E Gは設立以来、次代の地域の経済をリードする人材育成の場として活動してきました。多くの先輩たちが、熱意をもって精力的に活動したおかげで、今日の岡崎Y E Gがあります。地域で必要とされ存在価値をますます高められよう、帰属意識をもって活動しましょう。一人の無責任な言動が、他の会員や組織全体の品位や信用をおとしめることにもつながります。各人が岡崎Y E Gを代表していることを忘れないでください。

組織とは、会員一人ひとりの力を集約することで大きな力を発揮するためのものです。一人ひとりには小さくとも、意見や考え、気持ちを集約することで、より大きな力を得ることができます。それは渋沢栄一氏が商工会議所を設立した理念にも通じるものであり、Y E Gでも大きな力を発揮し、自社や地域をさらに発展させる原動力となります。

綱領・指針の主旨を十分に理解し、地域経済を先導していくという気概を持ち、次代を担うニューリーダーとしての資質向上に努めなくてはなりません。

● 《心構え》

1. 会の趣旨や目的を理解し、青年経済人として目的意識と高い志を持つ。
2. 常に前向きにそして主体的に行動する。
3. 時間は平等であり、守ることが前提である。
4. 見られている意識を持ち、ルールやマナーを遵守する。
5. 言動には注意をはらい、責任を持つ。

● Q & A

Q. 「Y E Gに入会するとどんなメリットがありますか？」

A. よく耳にする言葉です。Y E Gは何かを与えてくれる場ではありません。自らの手で種を蒔き、育て、収穫する場です。

そのすべての根幹は、行動力です。積極的に参加することで得るものは無限大∞です。
意識次第で、どのような場面、立場、状況でも学びがあり成長につながられます。

Q. 「忙しくてなかなか参加できません」

- A. YEGは奉仕や娯楽の場ではありません。経済活動、企業活動の場、すなわち仕事の一部です。経営者、後継者、幹部として、多くの人たちと接し、積極的に学び経営能力を高め、その力を自社の発展につなげることもできます。自分自身や自社を売り込み、信頼を得られれば仕事も舞い込むなどビジネスチャンスを生むこともあります。
- 人によってそれぞれの立場、環境があり、参加しやすさに差はあるのは事実ですが、時間は平等に与えられています。その時間をどう有効に活用するかは、自分自身にかかっています。
- 実際に忙しい人ほど「時間が……」とは言いませんし、遅刻や欠席もしないものです。

Q. 「YEGの目的は『自社の発展』と『地域の発展』のどちらですか？」

- A. 活動の3本の柱である「自己研鑽」「相互啓発」「地域振興」は目的ではありません。活動の内容であり、方法、手段です。「自己研鑽」によって経営者として資質を伸ばし、「相互啓発」によって様々な考え方を学べます。「地域振興」によって地域を元気にすることで、そこで生業を営む私たち事業者も元気になります。
- その全ては、自社のためであり、すなわち地域のためにつながります。自社の利益のみを目的に掲げるような会社はありませんし、自社の存在が社会のためになるという理念で営まれているはずです。つまり、どちらか一方が正しいのではなく、相関関係があり、両方とも重要です。ただし、目的と手法を混同してはいけません。

終わりに

渋沢栄一氏が東京商法会議所を設立し、初代会頭に就いたのは38歳の時でした。氏が持っていた危機感と使命感、行動力と決断力が日本の産業の発展をけん引したことは疑いのない事実であります。時代は違えど、地域の経済的な発展を支えるのは、私たち若手経済人であります。綱領・指針にある通り、気概と情熱をもって歩みを進めることが、私たちの責務です。

Y E Gには制限年齢があります。限られた青年期の中で何事にも果敢に挑戦し、成長を実感し、その成果を自社へ還元してこそ、この活動が意味を持ちます。会員全員がそれを実感できたとき、岡崎Y E Gがエリート集団となり、地域になくてはならない組織へ成長でき、豊かで住みよい郷土づくりに貢献できます。

Y E G活動に「ゴール」はありません。人が変わり、時代が変わろうとも精神は同じです。その精神をつなぎ、いつの時代もよりよい「岡崎」を作っていきましょう。

初版 令和 5年 3月

※このマニュアルの改版は、理事会の承認をもって実施する。但し、会員数等の更新が必要なものは随時できるものとする。

参考資料 1：日本Y E G年表

年度	会 長	単 会	回	全国大会開催地	回	全国会長研修会開催地
昭和56年度			1	群馬県前橋市		
昭和57年度			2	富山県高岡市		
昭和58年度	曾我 隆一	前橋	3	大分県大分市	1	東京都（中央研修会）
昭和59年度	竹中 勝治	高岡	4	茨城県水戸市	2	東京都（ 〃 ）
昭和60年度	安部谷 次郎	豊後高田	5	福井県福井市	3	東京都（ 〃 ）
昭和61年度	中山 昌男	土浦	6	福島県福島市	4	東京都（ 〃 ）
昭和62年度	古川 伸二	福井	7	沖縄県沖縄市	5	東京都（ 〃 ）
昭和63年度	萩原 幸昭	原町	8	山口県山口市	6	東京都（ 〃 ）
平成元年度	石川 正一	那覇	9	高知県高知市	7	東京都（ 〃 ）
平成2年度	小林 幹生	岩国	10	静岡県浜松市	8	東京都（ 〃 ）
平成3年度	和田 均	高知	11	島根県松江市	9	東京都（ 〃 ）
平成4年度	神谷 竹彦	浜松	12	山形県山形市	10	富山県富山市
平成5年度	櫻井 誠己	松江	13	三重県津市	11	神奈川県小田原市
平成6年度	佐藤 善三郎	山形	14	長崎県長崎市	12	京都府京都市
平成7年度	辻 正敏	津	15	埼玉県大宮市	13	和歌山県新宮市
平成8年度	松田 祥吾	長崎	16	奈良県奈良市	14	北海道岩見沢市
平成9年度	大村 晴利	大宮	17	徳島県徳島市	15	静岡県掛川市
平成10年度	吉本 博次	奈良	18	青森県青森市	16	愛媛県今治市
平成11年度	北島 重利	徳島	19	新潟県新潟市	17	岩手県花巻市
平成12年度	倉橋 純造	青森	20	鹿児島県鹿児島市	18	愛知県半田市
平成13年度	古泉 幸一	亀田	21	神奈川県小田原市・箱根町	19	福岡県久留米市
平成14年度	大脇 唯眞	鹿児島	22	大阪府守口市・門真市	20	千葉県柏市
平成15年度	鈴木 倂介	小田原箱根	23	鳥取県米子市	21	福井県福井市
平成16年度	小園 浩幸	高石	24	北海道帯広市	22	岡山県岡山市
平成17年度	荒濱 健太郎	米子	25	愛知県豊田市	23	北海道登別市
平成18年度	國枝 恭二	帯広	26	大分県大分市	24	石川県加賀市
平成19年度	原田 隆司	豊田	27	千葉県千葉市	25	長崎県長崎市
平成20年度	工藤 哲弘	大分	28	滋賀県大津市	26	静岡県浜松市
平成21年度	山内 毅	千葉	29	愛媛県松山市	27	奈良県奈良市
平成22年度	西居 基晴	大津	30	宮城県仙台市	28	香川県高松市
平成23年度	兵頭 弘章	松山	31	富山県富山市	29	山形県米沢市
平成24年度	尾山 謙二郎	富山	32	沖縄県那覇市	30	三重県津市
平成25年度	阿部 賀寿男	仙台	33	栃木県宇都宮市	31	熊本県水俣市
平成26年度	仲田 憲仁	那覇	34	京都府京都市	32	新潟県新発田市
平成27年度	伴 靖	宇都宮	35	岡山県岡山市	33	群馬県前橋市
平成28年度	岡村 寅嗣	京都	36	北海道岩見沢市	34	兵庫県加古川市
平成29年度	吉田 大助	岡山	37	岐阜県各務原市	35	島根県出雲市
平成30年度	内田 茂伸	岩見沢	38	宮城県宮崎市	36	北海道帯広市
令和元年度	田中 暢之	各務原	39	静岡県沼津市	37	長野県長野市
令和2年度	米良 充朝	宮崎	40	福井県鯖江市	38	大分県大分市
令和3年度	吉川 正明	沼津	41	香川県高松市	39	茨城県土浦市
令和4年度	西村 昭宏	鯖江	42	秋田県秋田市	40	大阪府枚方市・寝屋川市・交野市
令和5年度	木村 麻子	高松	43	石川県小松市	41	高知県高知市
令和6年度	吉川 裕太	秋田	44	福岡県久留米市	42	福島県郡山市
令和7年度			45	群馬県伊勢崎市	43	愛知県岡崎市
令和8年度			46		44	
令和9年度			47		45	
令和10年度			48		46	
令和11年度			49		47	

参考資料２：東海ブロックＹＥＧ年表

年度	会 長	単 会	ブロック大会	開催地
昭和63年度			第 1 回	津市
平成元年度			第 2 回	関市
平成 2 年度			第 3 回	春日井市
平成 3 年度	(辻 正敏)	津	第 4 回	鈴鹿市
平成 4 年度	(辻 正敏)	津	第 5 回	岡崎市
平成 5 年度	(竹内 光伸)	津	第 6 回	恵那市
平成 6 年度	(長谷川 義信)	関	第 7 回	伊勢市
平成 7 年度	(板垣 清志)	豊田	第 8 回	瀬戸市
平成 8 年度	(田中 健児)	関	第 9 回	関市
平成 9 年度	菅内 章夫	久居	第10回	久居市
平成10年度	伊藤 正幸	豊川	第11回	豊田市
平成11年度	前田 勘次	各務原	第12回	各務原市
平成12年度	中西 勇	松阪	第13回	鳥羽市
平成13年度	原田 隆司	豊田	第14回	豊橋市
平成14年度	牛丸 圭五	高山	第15回	高山市
平成15年度	伊藤 素近	鈴鹿	第16回	松阪市
平成16年度	山本 達彦	津島	第17回	東海市
平成17年度	伊佐地 路春	恵那	第18回	恵那市
平成18年度	青山 春樹	津	第19回	鈴鹿市
平成19年度	今泉 教夫	豊川	第20回	豊川市
平成20年度	多田 道子	関	第21回	関市
平成21年度	鈴木 成宗	伊勢	第22回	桑名市
平成22年度	松林 信吾	半田	第23回	半田市
平成23年度	横山 浩之	各務原	第24回	各務原市
平成24年度	山田 慎二	春日井	第25回	春日井市
平成25年度	加藤 貴士	伊勢	第26回	伊勢市
平成26年度	岡田 明文	可児	第27回	可児市
平成27年度	岡本 浩延	四日市	第28回	伊賀市
平成28年度	花市 佳明	岡崎	第29回	岡崎市
平成29年度	安田 雅人	津	第30回	津市
平成30年度	松林 良太	高山	第31回	高山市
令和元年度	篠田 佳宗	刈谷	第32回	刈谷市
令和 2 年度	澤野 泰隆	美濃加茂	第33回	美濃加茂市
令和 3 年度	寺田 昌史	豊田	第34回	豊田市
令和 4 年度	松林 大樹	鈴鹿	第35回	鈴鹿市
令和 5 年度	林 啓介	豊橋	第36回	豊橋市
令和 6 年度			第37回	
令和 7 年度			第38回	

※平成３～６は副会長(東海ブロック)、７,８年度は東海ブロック代表理事として日本ＹＥＧへ出向

参考資料 3 : 愛知県商工会議所青年部連合会年表

年度	会 長	単会
平成 4 年度	(寺田 悟)	瀬戸
平成 5 年度	(樋口 隆)	岡崎
平成 6 年度	(三浦 一夫)	豊田
平成 7 年度	金原 久雄	蒲郡
平成 8 年度	東浦 優至	半田
平成 9 年度	織田 喜詳	豊橋
平成10年度	伊藤 正幸	豊川
平成11年度	八木 勇達	春日井
平成12年度	鈴木 豊	刈谷
平成13年度	原田 隆司	豊田
平成14年度	田中 政明喜	津島
平成15年度	森岡 厚喜	東海
平成16年度	仁枝 重樹	豊橋
平成17年度	神野 公秀	刈谷
平成18年度	保浦 博志	犬山
平成19年度	寺田 聡	瀬戸
平成20年度	永田 龍寛	岡崎
平成21年度	山田 慎二	春日井
平成22年度	石川 孝	安城
平成23年度	鈴木 洋志	一宮
平成24年度	鈴木 寿明	蒲郡
平成25年度	松島 知幸	半田
平成26年度	鈴木 勝利	豊橋
平成27年度	中野 智春	東海
平成28年度	古市 晃久	大府
平成29年度	安藤 宜史	春日井
平成30年度	井澤 秀明	豊川
令和元年度	相川 光久	常滑
令和 2 年度	伊藤 準	江南
令和 3 年度	楠名 康弘	岡崎
令和 4 年度	岩崎 洋平	豊田
令和 5 年度	平出 高浩	小牧
令和 6 年度		
令和 7 年度		

※平成 4 ～ 6 年度は愛知県商工会議所青年部連絡協議会

参考資料４：岡崎ＹＥＧ年表

年度	平成元年度	平成２年度	平成３年度	平成４年度	平成５年度	平成６年度
会長	日比谷泰三 ㈱オリンピックススポーツ	日比谷泰三 ㈱オリンピックススポーツ	深田正義 丸石醸造㈱	三井永二 三井硝子㈱	大久保武 大久保商事㈱	三浦悦二 三浦木材㈱
基本方針・活動	１１６名でスタート １．会員ニーズ調査の実施 ２．若手経営者、後継者意識調査 ３．会員手帳の作成	１．広報誌「青年部だより」の創刊 ２．秋の市民祭り協賛、参加 ３．商青連に加入 ４．高崎市国際工商経営研究所との交流開始	「青年部って何だ」・ 「ニューリーダーズサミットの開催」 １．ニューリーダーズサミットの開催 ２．機関誌New Leaders Okazakiに決定 ３．「卒業生を送る会」の初開催 ４．愛知県商工会議所青年部連絡協議会設立に参加	「個の昂まり」 １．東海ブロック大会の主管、実施(38青年部、649名の参加登録) ２．三河商人道 岡崎塾の開催 ３．青経連への加入	「STEP UP! YEG」 １．「青年部ビジョン」の研究、報告 ２．高崎市国際工商経営研究社との姉妹提携の締結 ３．愛知県商工会議所青年部連絡協議会会長輩出	「さらなるニューリーダーを目指して！」 １．ニューリーダーズセミナーの開催 ２．岡崎の魅力発見研修会の開催 ３．「青年部ビジョン」の研究継続
主な例会	講演会 委員会対抗初夢大会 ボウリング大会 大学誘致サミット キリンビール名古屋工場見学	講演会 合同委員会 スズキ㈱豊川工場見学 ２月 初の「委員会成果発表会」 「ニューリーダーズサミット」開催 ３月 初の「卒業生を送る会」開催	講演会(星野仙一氏、梶川晃平氏、岩崎正悦氏等) ボウリング大会 三河商人道 岡崎塾専門ゼミナール ２月「三河商人道 岡崎塾」成果発表会開催 ３月「卒業生を送る会」開催	講演会 フットベアースボール大会 サッカー大会 ２月「委員会成果発表会」 ３月「卒業生を送る会」	講演会(氣功健康法、金平敬之助氏、大川会頭、重心行、税務研修会) ボウリング大会 「岡崎、知ってるつもり」[お月見例会] 「ふれあい大例会」 ２月「委員会活動成果発表会」 ３月「卒業生を送る会」	講演会(氣功健康法、金平敬之助氏、大川会頭、重心行、税務研修会) ボウリング大会 「岡崎、知ってるつもり」[お月見例会] 「ふれあい大例会」 ２月「委員会活動成果発表会」 ３月「卒業生を送る会」
その他活動	商青連全国大会(高知)への参加 東海ブロック大会(関)への参加	労働時間、休日等に関する調査 商青連全国大会(浜松)への参加 東海ブロック大会(春日井)への参加 東海ブロック大会の岡崎への誘致決定 定	他青年部との交流(津、高山、鈴鹿、小牧、豊田、豊橋) 秋の市民まつりに協賛、参加 (パターゴルフ) 商青連全国大会(松江)への参加 東海ブロック大会(鈴鹿)への参加 高崎市国際工商経営研究者への訪問 東海ブロック岡崎大会への準備	商青連全国大会(山形)への参加 高崎市国際工商経営研究社、来岡全国会報コンクールで特別賞 名古屋若誠会10周年記念事業に参加	商青連への出向 「五万石みこし」への参加 秋の市民まつりに協賛、参加 (巨大柵迷路) 商青連全国大会(津)への参加 東海ブロック大会(恵那)への参加	県連ソフトボール大会参加 青経連ソフトボール大会参加(優勝) 高崎市国際工商経営研究社へ訪問 名古屋若誠会等との交流 「五万石みこし」への参加 秋の市民まつりに協賛、参加 (巨大柵迷路) 商青連全国大会(長崎)への参加 東海ブロック大会(伊勢)への参加
事務局	大竹・大見	大竹・大見	大竹・加藤	大竹・加藤	大竹・加藤	大竹・荒川

年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
会長	川西進 (網スーパークレイズ)	柴田剛太郎 柴田鈞造(株)	渡辺要市 ワタナベ鯉のぼり(株)	古川正敏 網ヨシノ印刷	小山章仁 小山会計事務所	多々内丈雄 (資)多々内エーテックス商会
基本方針・活動	「本音で築こうニューリーダーネットワーク!」の開催 1.「強い塾」の開催 2.青年部のビジョン実現への検討 3.本音で言えるネットワーク作り	「交流から連携へ」 1.ニューリーダーズ岡崎セミナーの開催 2.10周年記念事業の検討 3.インターネットセミナーの開催 4.新入会員オリエンテーションの実施	「再度見つめ直そう 会員の為の青年部」 1.青年部道場の開催 2.10周年記念事業準備室の設置 3.第3回三河エリア青年部ソフトボール大会主管 4.岡崎YEG O B会の設立	「全員で築く10周年 果敢に行動 さらなるネットワーク」 1.10周年記念事業(企業フェア)の実施 2.事業経営勉強会の開催 3.青年部ホームペーページの作成 4.21世紀に向けて中期の青年部活動の検討	「見直そう足元を、磨き上げよう心を、明日の光を求めて」 1.ニュー・リーダーシップ・トレーニングの開催 2.NPO勉強会の開催 3.風情を楽しまながらの学習 4.機関誌のホームページ化	「いまこそいかに我々の力を」 1.企業フェア例会の実施 2.FMおかざきラジオ番組「A-1 and (あきんど)」の放送開始 3.青年部Web掲示板を導入、大幅リニューアル 4.青年部法被の作成
主な例会	「強い塾」 川西進、竹内桂子、都築聖子、神道邦男、大山広光、加藤千礼、岡田文男、井沢尚司、吉川正敏、青山昇治 2月「委員会活動成果発表会」 3月「卒業生を送る会」	講演会 ミニソフトバレー大会 重観賞家族例会 「ふれあい大例会パートII」 2月「委員会活動成果発表会」 3月「卒業生を送る会」	講演会 オリピック(五輪)大会 11月「ちよっと早い忘年会」 3月「卒業生を送る会」	講演会 6月「ホームペーページ作成講座」 7月「絵から学ぶ」 11月「生活習慣病と健康管理」 3月「卒業生を送る会」	6月「環境保全を考える」 7月「知って得するマル秘情報PC編」 9月「箱を覗きながらの観月会」 11月「NPOとは何だ!」 2月「ふれあい・ボランティア・チャリティ委員会」 3月「卒業生を送る会」	5月「会員親睦・交流会ボウリング大会」 7月「プレ企業フェア」 8月「隔る企業フェア」 (五万石みこし) 10月「企業フェア」 (城下町おかざきフェスタ) 11月「企業フェア」 (秋の市民まつり) 3月「卒業生を送る会」
その他活動	「青年部ビジョン」の研究継続 高崎市国際工務経営研究社へ訪問 高崎市国際工務経営研究社へ訪問 「五万石みこし」への参加 秋の市民まつりに協賛、参加 (巨大櫓送路) 商青連全国大会(大宮)への参加 東海ブロック大会(瀬戸)への参加	「青年部ビジョン」の研究継続 高崎市国際工務経営研究社へ訪問 高崎市国際工務経営研究社へ訪問 「五万石みこし」への参加 秋の市民まつりに協賛、参加 (巨大櫓送路) 商青連全国大会(奈良)への参加 東海ブロック大会(四)への参加	「青年部ビジョン」の研究継続 三河エリアソフトボール大会参加(優勝) 高崎市国際工務経営研究社へ訪問 「五万石みこし」への参加 秋の市民まつりに協賛、参加 (フライイングハウス) 商青連全国大会(徳島)への参加 東海ブロック大会(久居)への参加	10周年記念事業式典 企業フェア開催 三河エリアソフトボール大会参加(3位) 高崎市国際工務経営研究社へ訪問 「五万石みこし」への参加 秋の市民まつりに協賛、参加 (フライイングハウス) 商青連全国大会(青森)への参加 東海ブロック大会(豊田)への参加	新入会員オリエンテーション開催 年代別交流会開催 企業フェア(秋の市民まつり)開催 三河エリアソフトボール大会参加(準優勝) 高崎市国際工務経営研究社へ訪問 「五万石みこし」への参加 城下町おかざきフェスタへの参加 商青連全国大会(新潟)への参加 東海ブロック大会(各務原)への参加	新入会員オリエンテーション開催 年代別交流会開催 血液型別交流会開催 三河エリアソフトボール大会参加(優勝) 高崎市国際工務経営研究社へ訪問 商青連全国大会(鹿児島)への参加 東海ブロック大会(鳥羽)への参加
事務局	池上・荒川・高木	池上・荒川・高木	池上・羽田野・井上	池上・和田	柴田・和田	柴田・羽田野・林

年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
会長	阿部年恭 アベラジオ㈱	杉本知治 杉林建設㈱	藤井康正 フジ住宅㈱	永田龍寛 御永田石材問屋	長坂光司 (資) 池田屋	機部亮次 機部ろうそく店
基本方針・活動	「原点に返れ A-Kind!」 1. あきんど塾の開催 2. 15周年に向けた準備 3. Webサイト「a-kind.com」ドメインの取得 4. エココイン「ecoじゃん」実験事業の実施 5. エコバサッカード大会参加 6. 福祉セミナーの開催	「羽ばたけ A-Kind!」 1. あきんど塾の開催 2. 15周年に向けた準備 3. Webサイト「a-kind.com」ドメインの取得 4. エココイン「ecoじゃん」実験事業の実施 5. エコバサッカード大会参加 6. 福祉セミナーの開催	「A-Kind! “3つの絆”を大切に!!」～仕事の絆・青年部メンバーとOBの絆・家族の絆～ 1. 15周年記念事業の実施 2. A-Kind手帳の策刊 3. 15周年記念みこし「学生コラボ参加」 4. ecoじゃんプロジェクトの実施 5. 家族親睦・企業体験例会の開催 6. あきんど養成講座の開催	「15年の歴史を踏まえ、一歩前進」 1. 全国大会準備委員会の設置 2. 全国大会愛知大会実行委員会への出向・参画 3. 企業PR事業（ピンゴdeチャリティー）の実施 4. ecoじゃん継続実験事業の実施 5. 三河・知エスリア親睦ソフトボール大会の主管 6. あきんど養成講座の開催	「自ら学び・自ら交わり・自分に活かせ!」それがA-Kindだ! 1. 全国大会愛知大会主管 2. 岡崎YEG全国大会実行委員会設置 3. 「会議所塾」[OB塾]の開催 4. ecoじゃん事業の検証 5. エンジェルタツチの試験的導入 6. 青年部キャラクター「アキンダー」の創作 7. 企業PR事業（ピンゴdeチャリティー）の実施	「Search for the best position」 今を学び、力を蓄え、見つけよう! 時代の「best position」 1. 「会議所塾」[OB塾]の開催 2. 中・長期ビジョンの策定 3. 簡易会員手帳の作成 4. OB会との連携強化 5. エンジェルタツチの試験的運用 6. ホームページの検証 7. 企業PR事業(オリジナルうちわ、カレンダー製作・配布)の実施
主な例会	5月「委員会対抗ぶっりんタ大会」 8月「踊る企業フェア」 (五万石みこし) 10月「企業フェア」 (城下町おかざき7z4th) 11月「企業フェア」 (市民まつり) 2月「福祉セミナー」 (共催：NP0法人21世紀を創る会・みかわ) 3月「卒業生を送る会」	7月「オリエンテーション研修」 8月「踊る企業フェア」 (五万石みこし) 10月「企業フェア+エココイン実験事業の実施」 (城下町おかざき7z4th) 11月「企業フェア」 (市民まつり) あきんど塾(4回) 3月「卒業生を送る会」	5月「会員企業研修」 7月「年代別交流会」 8月「企業フェアA-Kind&大学生コラボレートお仲間」(五万石みこし) 10月「企業フェア+エココイン事業」 (城下町おかざき7z4th)※YEG大賞入選 2月「ビジネス交流会」 3月「卒業生を送る会」	6月「会員企業防犯研修」 7月「東海ブロック大会」 8月「A-Kind&愛産大コラボレートお仲間」(五万石みこし) 9月「ビジネスの成功と夢を叶える秘訣」(講演会) 10月「エココイン事業+愛・地球PR」(岡崎まち祭り) 11月「全国大会愛知大会と愛・地球博を学ぶ」(2月) 1月「OB大交流会」 3月「卒業生を送る会」	5月「会議所塾」伊藤会頭 7月「全国大会愛知大会」主管技(き)の分科会担当 8月「A-Kind&愛産大コラボレートアキンダーみこし」(五万石みこし) 9月「会議所塾」古澤副会頭 10月「東海ブロック大会」 11月「ecoじゃん事業の検証」 1月「OB大交流会」 2月「エココインが勉強会」 3月「卒業生を送る会」	5月「岡崎会館」別大会 6月「会議所塾」服部良副会頭 7月「経営塾」真心の経営を学ぶ(講演会) 8月「青年部お仲間・それ行けあきんど」(五万石みこし) 9月「県連、そこが知りたい」 10月「体気で語ろう青年部」入会 別・年代別 交流会 11月「岡崎YEGキャッチコピーコンテスト」 1月「OB大交流会」 2月「会議所塾」太田副会頭 3月「卒業生を送る会」
その他活動	新入会員オリエンテーション開催 地域別交流会開催 三河エリアソフトボール大会参加 (優勝) パソコンセミナーの開催 高橋市国際工商経営研究社へ訪問 高青連全国大会(小田原・箱根)への参加 東海ブロック大会(豊橋)への参加	年齢別交流会開催 三河エリアソフトボール大会参加 (4位) 額田町商工会青年部視察交流会 蒲郡商工会議所青年部例会交流会 三遠南信交流事業への参加 蔵元視察会 『飲酒を伴う外食と交通手段に關するアンケート調査』の実施	三河・知多エリア親睦ソフトボール大会参加(6位) 春日井YEG7月例会公開講演会参加 A-Kind ザ・ロードショー開催 A-Kind倶楽部開催 中学校別交流会開催 高橋市国際工商経営研究社への訪問 高青連全国大会(米子)への参加 東海ブロック大会(松阪)への参加	三河・知多エリア親睦ソフトボール大会参加(3位) 高橋市国際工商経営研究社への訪問・企業視察 高青連全国大会(北海道帯広)への参加 東海ブロック大会(東海)への参加 新入会員オリエンテーション開催 青経連活動への積極参加	公開委員会の開催 県連有志親睦ソフトボール大会参加 (ぶっりんタに変更4位) 高青連全国大会(豊田市ほか)への全員登録・参画 東海ブロック大会(東郷)への参加 新入会員オリエンテーション開催 青経連活動への積極参加	公開委員会の開催 県連親睦交流事業ソフトボール大会参加(4位) 高橋市国際工商経営研究社への訪問・企業視察 日本YEG全国大会(大分)への参加 東海ブロック大会(鈴鹿)への参加 新入会員オリエンテーション開催 ビジョンアンケートの実施
事務局	荒川・竹内・杉浦	田中・荒川・杉浦	田中・荒川・杉浦	中垣・田中	中垣・田中	中垣・澤田

年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
会長	白濱智久 白濱建設(株)	柴田匡司 柴田会計事務所	都築利幸 (株)エス・ディ・エー	尾崎邦泰 あい印刷(株)	鈴木潤 (株)中日設計事務所	福澤玉青 (株)アサヒクリーメンメンテ
基本方針・活動	「チャレンジYEG～人は人によって磨かれる～」 1. 「会議所塾」OB塾の開催 2. 20周年準備室設置 3. コジエルの普及 4. H P のリニューアル 5. ビジネスモデル構築の研究 6. IT宣言2008の実施 7. 青年部「ヤクサー」の創作 8. 委員会成果発表会の開催 9. 企業PR事業の実施	「行動から創り出す20周年！“ひとづくり”学びこそ原点 新たな一歩を踏み出そう、次代へ！」 1. 20周年記念事業の実施 ○歴代会長への取材・記念誌の作成 ○現役歴代会長座談会の実施 ○J E C の実施 ○記念式典・講演会・懇親会の実施 2. 県連会長・副会長、事務局設置 3. Web版「ヤクサー」の制作 4. 青年部PR事業の実施	「知を研ぎ、体を養い、徳を高め、智を磨く！それがYEGの原点だ！」 1. J E C の実施と検証 2. 青年部事業サイクルと規約の見直し 3. 青年部「シグナル」に関する意見交換会 4. 他青年部との交流と研究 5. 青年部PR事業の実施と「ヤクサー」「あきん猫」の普及 6. Web版「ヤクサー」のリニューアル 7. 会員手帳の作成	「伝心、伝承、そして次のステップへ進化！」 ～人に伝え、心を伝え、技を伝え、自らに残す！岡崎YEG進化論～ 1. J E C の実施と検証 2. 青年部「シグナル」に基づき新たな事業の企画、立案 3. 地域振興事業の実施 4. 青年部塾の企画と開催 5. 「あきん猫」のリニューアルと普及 6. H P のリニューアル 7. 県連会長・副会長 8. 県連広報委員長輩出	「A-kind仲間」を増やそう！ 1. J E C の実施 2. 委員会活動の企画と開催 3. 公開委員会の企画と開催 4. 他青年部メンバーとの交流 5. 青年部PR事業の実施 6. 県連事業への積極参加 7. 親睦事業への積極参加 8. OBとの積極交流 9. 県連顧問・東海ブロックYEG副会長・日本YEG理事輩出	「自ら求めるところに答えがあり、そのすべてが私たちの力となる」～チーム岡崎YEG～ 1. J E C の実施 2. 委員会活動の充実 3. 実践型研修会の開催 4. 親睦120周年事業の企画・運営 5. 県連事業への積極参加 6. OBとの積極交流 7. 他青年部メンバーとの交流 8. 県連顧問・東海ブロックYEG副会長・日本YEG理事輩出
主な例会	5月「岡崎YEG」が大会 6月「新入会員歓迎会」 7月「夏祭・夏祭講習」 8月「みこしだ ワッショイ！はじける岡崎YEG！」 9月「経営塾」地域の新しい風会議（講演会） 10月「いざ発進！A-Kind PR大作戦」 11月「会議所塾」伊藤会頭 1月「OB交流事業」 2月「委員会活動成果発表会」 3月「卒業生を送る会」	5月「岡崎YEG」が大会 6月「VISION！岡崎YEG未来予想図！」 7月「自來へびひびけ！われら岡崎YEG（五万石みこし）」 8月「それいけ あきん猫～20周年だよ！岡崎YEG（五万石みこし）」 9月「大久保武生蔵から学ぼう（OB塾・講演会）」 10月「いざ発進！A-Kind PR大作戦」 11月「いざ発進！A-Kind PR大作戦」 12月「お疲れ様2008年、まだまだ頑張ろう20周年！プラスYEG博覧会」 2月「青年部活動の20周年を振り返る！」 3月「卒業生を送る会」	5月「岡崎YEG」が大会 6月「VISION！岡崎YEG未来予想図！」 7月「自來へびひびけ！われら岡崎YEG（五万石みこし）」 8月「それいけ あきん猫～20周年だよ！岡崎YEG（五万石みこし）」 9月「大久保武生蔵から学ぼう（OB塾・講演会）」 10月「いざ発進！A-Kind PR大作戦」 11月「いざ発進！A-Kind PR大作戦」 12月「お疲れ様2008年、まだまだ頑張ろう20周年！プラスYEG博覧会」 2月「青年部活動の20周年を振り返る！」 3月「卒業生を送る会」	5月「岡崎YEG」が大会 6月「VISION！岡崎YEG未来予想図！」 7月「自來へびひびけ！われら岡崎YEG（五万石みこし）」 8月「それいけ あきん猫～20周年だよ！岡崎YEG（五万石みこし）」 9月「大久保武生蔵から学ぼう（OB塾・講演会）」 10月「いざ発進！A-Kind PR大作戦」 11月「いざ発進！A-Kind PR大作戦」 12月「お疲れ様2008年、まだまだ頑張ろう20周年！プラスYEG博覧会」 2月「青年部活動の20周年を振り返る！」 3月「卒業生を送る会」	5月「岡崎YEG」が大会 6月「VISION！岡崎YEG未来予想図！」 7月「自來へびひびけ！われら岡崎YEG（五万石みこし）」 8月「それいけ あきん猫～20周年だよ！岡崎YEG（五万石みこし）」 9月「大久保武生蔵から学ぼう（OB塾・講演会）」 10月「いざ発進！A-Kind PR大作戦」 11月「いざ発進！A-Kind PR大作戦」 12月「お疲れ様2008年、まだまだ頑張ろう20周年！プラスYEG博覧会」 2月「青年部活動の20周年を振り返る！」 3月「卒業生を送る会」	5月「新入会員歓迎会」 6月「親会創立120周年記念講演会」最新！消費スタイルから見たマーケティング戦略 7月「「あなたの会社はお客様に必要とされていますか」研修事業」 8月「「家庭に感謝、家庭交流会でチーム岡崎YEGの絆を深める」 9月「東海ブロック大会半田大会」 10月「リーダーの決断力～地産シミュレーション訓練～」研修事業 11月「お疲れ様とさあつくる」新メンバーの歓迎研修 12月「「EBC研修会」研修事業」 1月「OB交流事業」 2月「「事業別」成果発表会」 3月「卒業生を送る会」
その他活動	公開委員会の開催 企業PR事業（あきん猫～ぬり絵が製作・配布） 県連親睦交流事業ピーチボールパレー大会参加（5位） 高崎市国際工商経営研究社への訪問・企業視察 日本YEG全国大会（千葉）への参加 東海ブロック大会（徳川）への参加 「岡崎YEG IT宣言2008」の企画・実施	公開委員会の開催 高崎市国際工商経営研究社への訪問・企業視察 日本YEG全国大会（びわ湖大津）への参加 東海ブロック大会（関）への参加 県連会長会議（岡崎会議）の企画・開催 日本YEG全国大会（千葉）への参加 東海ブロック大会（徳川）への参加 「岡崎YEG IT宣言2008」の企画・実施	公開委員会の開催 高崎市国際工商経営研究社への訪問・企業視察 日本YEG全国大会（びわ湖大津）への参加 東海ブロック大会（関）への参加 県連会長会議（岡崎会議）の企画・開催 日本YEG全国大会（千葉）への参加 東海ブロック大会（徳川）への参加 「岡崎YEG IT宣言2008」の企画・実施	公開委員会の開催 高崎市国際工商経営研究社への訪問・企業視察 日本YEG全国大会（びわ湖大津）への参加 東海ブロック大会（関）への参加 県連会長会議（岡崎会議）の企画・開催 日本YEG全国大会（千葉）への参加 東海ブロック大会（徳川）への参加 「岡崎YEG IT宣言2008」の企画・実施	公開委員会の開催 高崎市国際工商経営研究社への訪問・企業視察 日本YEG全国大会（びわ湖大津）への参加 東海ブロック大会（関）への参加 県連会長会議（岡崎会議）の企画・開催 日本YEG全国大会（千葉）への参加 東海ブロック大会（徳川）への参加 「岡崎YEG IT宣言2008」の企画・実施	公開委員会の開催 高崎市国際工商経営研究社への訪問・企業視察 日本YEG全国大会（びわ湖大津）への参加 東海ブロック大会（関）への参加 県連会長会議（岡崎会議）の企画・開催 日本YEG全国大会（千葉）への参加 東海ブロック大会（徳川）への参加 「岡崎YEG IT宣言2008」の企画・実施
事務局	中垣・澤田	中垣・澤田	中垣・澤田	中垣・澤田	中垣・奥田・金澤・山本・杉浦	平野・杉浦

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
会長	花市佳明 例花市電子顕微鏡技術研究所	藤井浩久 フジビニール例	植西 均 例コットンテール	松岡 聡一 蓮花夢	加藤 雄一郎 例花夢
基本方針・活動	「人として進化、仲間と深化、地域で芯化。～高めよう、YEGの真価！～」の実施 1. 25周年記念事業の実施 2. 「ビジネス」ランコテスト2013」の実施 3. 委員会活動の充実 4. 青経連事業への積極参加 5. OBとの積極交流 6. 他青年部メンバーとの交流 7. 県連交流委員長・青経連40周年担当顧問輩出	「～Grow up 岡崎YEG～」学びを糧とし、互いの関わりが自信となり、行動して成長する 1. 「ビジネス」ランコテスト2014」の実施 2. 委員会活動の充実 3. 青経連事業への積極参加 4. OBとの積極交流 5. 他青年部メンバーとの交流 6. 県連顧問、東海プロダクト監事・理事、青経連常任理事輩出	～Keep going～ 「志」と「我らの旗」を掲げ、歩を進めよう！ 1. 「東海ブロック大会岡崎大会」開催準備 2. 委員会活動の充実 3. 青経連事業への積極参加 4. OBとの積極交流 5. 他青年部メンバーとの交流 6. 県連監事、東海プロダクト顧問、青経連事務局長・常任理事輩出	創意挑戦 ～友と学び、共に歩み、未来を灯せ！～ 1. 「東海ブロック大会岡崎大会」開催 2. 委員会活動の充実 3. 青経連事業への積極参加 4. OBとの積極交流 5. 他青年部メンバーとの交流 6. 日本YEG副会長・東海プロダクト相談役、県連顧問、青経連常任理事輩出	愛を持って生きよう！ワクワク出来る青年部創り「青年部愛 向上年度」 1. 委員会活動の充実 2. 30周年準備室設置 3. 青経連事業への積極参加 4. OBとの積極交流 5. 他青年部メンバーとの交流 6. 日本YEG副会長・東海プロダクト相談役、県連顧問、青経連常任理事輩出
主な例会	5月「仲間と深化親睦ボウリング大会」 6月「これがビジネスプランコンテストだ！」 7月「笑うコミュニケーションセミナー」 8月「同年代で新たな仲間を本気で作る」岡崎YEG小(笑)運動会 9月「共に考えよう・原点！高めよう真価！～東海ブロック大会を学び、次のステージへ～」 10月「第26回東海ブロック大会伊勢大会」参加 11月「組織を元気にする人づくり研修「無人島とカレラライズと人育て」 12月「集まりたくなる街「岡崎」」 1月「25周年記念式典・懇親会」 2月「委員会活動成果発表会」 3月「卒業生を送る会」	5月「Grow up 岡崎YEG」 6月「親会の活動を知り、次世代としてつながろう！」 7月「伝説の委員会に学ぶ！」 8月「岡崎城下家康公夏まつり五万石みこし」参加 9月「第27回東海ブロック大会可児大会」参加 10月「トップがほめられ、組織は更に元気になる！」 11月「岡崎YEGのシンボルランコテスト2014 最終審査&表彰式」 12月「ありのまままで語り合おう！大忘年会！！」 1月「新年大交流会！～“我ら岡崎YEG”新年の格闘を先輩とともに～」 2月「成果発表会～委員会ニュースベスト3～」 3月「卒業式・卒業生を送る会」	5月「会員親睦会～メンバーとのつながりを増やし深めよう～」 6月「YEGの発展に Keep going “組活” !!」 7月「新しい発想法『未来デザイン考程』を学ぼう！」 8月「夏の一日を通じて家族に感謝。そして心から楽しもう！」 9月「第28回東海ブロック大会伊賀上野大会」参加 10月「高亮繁盛に繋げよう！All for one, One for all」 11月「経営者の思いが伝わる話し方を学ぼう！」 12月「嗚呼、今年もやっちゃった…」さあ来い！新年！笑劇の大忘年会！！」 1月「OBと共にいざ出陣！～岡崎の歴史と文化を学び語り合おう～」 2月「Keep going組活！『成果発表会！』」 3月「卒業式・卒業生を送る会」	5月「会員親睦会～仲間から先輩の仲間、へ～」 6月「新入会員ウェルカム」～君に届け！「青年部活動の魅力」に創意挑戦～ 7月「やるぞ！東海プロダクト大会岡崎大会大決起集会」 8月「岡崎城下家康公夏まつり「創意挑戦！新世紀みこし発進！」 9月「第29回東海ブロック大会岡崎大会」 10月「東海プロダクト大会 岡崎の宴」～あの感動を、最高の仲間とともに～ 11月「創意挑戦道」～先輩から学ぶ 挑戦と決断～ 12月「THE 忘年会」 1月「OB交流会」 2月「情熱で未来を灯せ！『成果発表会』」 3月「卒業証書授与式・卒業生を送る会」	5月「青年部ってなんだ！綱領・指針を学ぶ」 6月「どんな時も みんなで力を合わせろ！こえろ！」 7月「YEUは何故この仕事を？」 8月「競争力を発揮し チームの要となれ！」 9月「青年部ってなんだ！これからの岡崎YEGの価値を考える」 10月「第30回東海ブロック大会津大会」参加 11月「新たな視点からの魅力を発見！岡崎愛の醸成を図る」 12月「前活パーティー ～コラボで奏でる青年部愛～」 1月「岡崎YEGの歴史を学び、未来に向け新たな一歩を踏み出そう！」 2月「Let's 多幸焼きバレーパーティー！」 3月「卒業生を送る会」
その他活動	公開委員会の開催 高雄市国際工商経営研究所 社長交代式参加 日本YEG全国大会(宇都宮)参加 東海ブロックYEG親睦交流会参加 県連会長会議(岡崎会議)の企画・開催 県連愛知YEG DAY参加 県連有志ソフトボール大会参加 県連有志親睦サッカークー大会参加 YEG全国サッカークー大会参加	公開委員会の開催 高雄市国際工商経営研究所 社長交代式参加 日本YEG全国大会(京都)参加 東海ブロックYEG親睦交流会参加 県連愛知YEG DAY参加 県連有志ソフトボール大会参加 県連有志親睦サッカークー大会参加 YEG全国サッカークー大会参加「3位」	公開委員会の開催 高雄市国際工商経営研究所 社長交代式参加 日本YEG全国大会(岡山)参加 東海ブロック第1回会員総会・会長会議 東海ブロックYEG親睦交流会参加 県連愛知YEG DAY参加 県連有志ソフトボール大会参加 県連有志親睦サッカークー大会参加 YEG全国サッカークー大会参加	高雄市国際工商経営研究所 社長交代式参加 岡崎市制施行100周年記念事業「田んぼアート」協力 日本YEG全国大会(岩見沢)参加 東海ブロックYEG親睦交流会参加 県連愛知YEG DAY参加 県連有志ソフトボール大会参加 YEG全国サッカークー大会参加 岡崎商工会議所女性部「カシノ」大会参加	高雄市国際工商経営研究所 社長交代式参加 日本YEG全国大会(各務原)参加 東海ブロックYEG親睦交流会 企画・運営 県連愛知YEG DAY参加 県連有志ソフトボール大会参加 YEG全国サッカークー大会参加 岡崎商工会議所女性部「カシノ」大会参加
事務局	神谷・板倉	神谷・板倉	神谷・板倉	神谷・板倉	板倉

年度	平成30年度	平成31年度（令和元年度）	令和2年度	令和3年度
会長	加藤浩晃 やばき設備	水越晴彦 （株）バーバース	楠名 康弘 石炭石工業㈱	阿知和 司 阿知和板金工作所
基本方針・活動	「自（他）を固め 次代へ強く前進 岡崎YEG」 1. 30周年記念事業の実施 2. 「あきんど塾2018」の実施 3. 委員会活動の充実 4. 青経連事業への積極参加 5. OBとの積極交流 6. 他青年部メンバーとの交流 7. 県連交流委員長・日本YEG企画委員長の輩出	「Make The Best Team岡崎YEG」 1. 「異業種交流展示会」出展 2. 委員会活動の充実 3. 青経連事業への積極参加 4. OBとの積極交流 5. 他青年部メンバーとの交流 6. 県連交流委員長・専務理事 7. 県連交流委員長・専務理事・事務局長輩出	「勇往邁進」YEG（われら）同志と創る未来のために！ 1. 新型コロナウイルス対策活動（新型コロナウイルス対策例会実施、協力券・団結券の発行等） 2. Zoomを使用したオンライン例会・理事会・委員会活動 3. オリエンテーション委員会発足（前期・後期入会の新入会員に半年間、青年部等について学びの場を提供） 4. ビジネスタイム・バーズデイズタイム実施 5. 県連筆頭副会長、東海ブロック役員、青経連常任理事・理事・相談役輩出	心友作りが地域を創る！ ～自ら心を学び、心をつなぎ、心を伝える～ 1. 新型コロナウイルス対策活動（第2弾協力券の発行等） 2. Zoomを使用したオンライン例会・理事会・委員会活動 3. 令和7年度全国会長研修会誘致検討会設置 4. YEGボロシャツのリニューアル 5. 親会・OBとの積極交流 6. ビジネスタイム紙面展開 7. 県連会長・専務理事・顧問、東海ブロック副会長・相談役、日本YEG監事、青経連常任理事・理事・監事輩出
主例会	5月「岡崎YEG帰ってきた親睦ボウリング大会2018」 6月「ここまで活用できるんだ！」 7月「会社」に元気・活気・勇気を与える 魔法の言葉 8月「今こそ魅せる！！YEG魂！！」 9月「学び、考え、次代へ強く前進」 10月「第31回東海ブロック大会 飛騨高山大会」参加 11月「私たちが岡崎の街をつくるQURUWA」 12月「岡崎YEG平成最後の忘年会」 1月「30周年記念式典・懇親会」 2月「Check 1 Action」 3月「次代へつなげる成果発表会」 次代へつなげる成果発表会	5月「ベストを尽くせ 委員会戦ひんびく」 6月「魅！！市政案」 7月「人工知能時代到来！！人を幸せにする経営を考える」研修事業 8月「岡崎YEG あきんど塾2019」 9月「第32回東海ブロック大会刈谷大会」参加 10月「岡崎YEGの魅力語り合おう！in Camp Meeting」 11月「街の未来をソウゾクしよう！！」研修事業 12月「忘年会だヨ！全員集合」 1月「趣味からひろげよう交流の輪！！」 2月「STORIES ～十人十色のYEG物語～」開催中止 3月「卒業生を送る会」開催延期	4月～6月 緊急事態宣言発令のため中止 7月「会議所オンライン大学」 8月 第1部「使える！LINE公式アカウントの活用方法～今こそ勇往邁進！～」 第2部「会員結社事業（納涼祭）」 9月「怒り」の感情をコントロール！生涯性向上でチャレンジ3.0につなげよう！！ 10月「POWER UP～今こそ会員拡大、さらなる組織力向上を目指せ！！～」 11月「（新型コロナウイルス対策）経営戦略塾 ～チャンスをつかめ！！～」 12月「岡崎YEG あきんど塾 2020」 同月（会員交流会）「岡崎YEG（われら）の明るい未来へ勇往邁進！！」 1月「未来創造塾～YEG同志と創る未来のために～」 2月「オンラインビジネス会員交流会」 3月「卒業証書授与式・卒業生を送る会」	4月「出発式」 5月「会員交流会」オンライン事務局へ仲間がいればなんとかなるさ～ 6月「未来情報塾」社会ニーズをビジネスチャンスに！自社事業を一步進める「事業リノベーション」を学ぶ 7月「経営塾」心を磨け！言葉を磨く！ほめちからアップで経営力向上！ 8月「ビジネス交流会」振って知って驚こう！～すぐろくで出陣すビジネスチャンス～ 9月「会議所塾」会議所（おやかい）とも心友に！部会でつながりチャンスを開め！ 10月「防災塾」その時あなたは行動できますか？いざという時のために救命知識を学ぼう 11月「未来伝心塾」～声を上げ、岡崎の未来を創るYEGを目指して～ 12月「岡崎YEGあきんど塾2021」 1月「OB交流会」今年から通年！一緒に語り一緒に笑おう！オンライン新年会！ 2月「成果発表会」結果を魅せる！成果発表！ 3月「卒業証書授与式・卒業生を送る会」
その他活動	公開委員会の開催 高雄市国際工商経営研究社社長交代式参加 「岡崎城下町家康公夏まつり」参加 五万石こしし参加 日本YEG全国大会（宮崎）参加 東海ブロックYEG親睦交流会参加 県連会長会議（岡崎会議）の企画・開催 県連連知YEG DAY 参加 県連有志ソフトボール大会参加 YEG全国サッカー大会参加 岡崎商工会議所女性部「リゾナ」大会参加	公開委員会の開催 高雄市国際工商経営研究社社長交代式参加 「岡崎城下町家康公夏まつり」味噌六太鼓担ぎ上げ参加 日本YEG全国大会（沼津）参加 東海ブロックYEG親睦交流会参加 愛知県YEG DAY 参加 県連有志ソフトボール大会設置・参加 YEG全国ゴルフ大会参加	公開委員会の開催 日本YEG全国会長研修会（大分）参加 日本YEG全国大会（美濃加茂）参加 東海ブロック大会（豊田）参加 日本YEG全国大会（鯖江）参加 高雄市国際工商経営研究社社長交代式に記念品と祝文を送付	公開委員会の開催 日本YEG全国会長研修会（土浦）参加 日本YEG全国大会（高松）参加 東海ブロック大会（豊田）参加 【県連】ソフトボール大会参加（一宮）、ゴルフコンペ参加（瀬戸）、スキルアップ研修会参加（Web）、ビジネス研修会参加（半田）、YEG DAY 参加（蒲郡） 高雄市国際工商経営研究社社長交代式に記念品と祝文を送付 「ゆるキャラ広報大使」岡崎警察署より受嘱 岡崎商業高校へ「岡崎あきんど塾」講師派遣
事務局	神谷・柴原	神谷・滝川	石原・柳瀬	石原・柳瀬